

授業科目名	人間の科学（人の老化と死、高齢期社会を生きる）					学期	曜 日	校時
英 語 名	Human Sciences (Aging and Death)							
担 当 教 員 名	中園 一郎他	単位数	2 単位	必修 選択	選択	後期	金曜日	3 校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>人の老化と死について病理・細胞生物学的に解説し、尊厳死などのタナトロジー（死生学）に関する入門的講義を行う。また、高齢期社会をいかに生きてゆくべきかを検討する。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
<p>教科書を用いず授業計画にそったプリント・資料を配付する。 参考図書など適宜紹介する。</p>								
対 象 学 生	成 績 評 価 の 方 法					教 員 研 究 室		
全学部	講義時間内あるいは後に小テストやレポート提出により評価する。							
授 業 計 画								
<p>1．人の死について（担当：中園一郎） 5 回</p> <p>人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態についても理解を深め、人の死とは何かを考える。また、乳幼児や成人に発症する急死例を呈示し、人における突然（急）死について考える。</p> <p>2．細胞における老化現象（担当：下川 功） 3 回</p> <p>人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について老人性痴呆症やアルツハイマー病等の症例を呈示する。</p> <p>3．高齢期社会を生きる（担当：森 俊介、内村公義） 6 回</p> <p>「安心して死ぬる」とは、たとえ障害があろうと、独り暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意志で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連繋は当然であるが、地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでいく」という人にとって絶対的なことについてタナトロジー（死生学）も含めて考える。</p>								
<p>オフィスアワー（質問受付時間）： 土、日を除く随時（研究室にいる時間は特定できません。）</p> <p>各教員の都合を確認後、直接質問等をするように希望する。</p>								